

## 平成29年度第3回山梨県公立大学法人評価委員会 議事概要

- 1 日 時 平成29年8月10日（木）午後2時～午後4時
- 2 場 所 県立大学飯田キャンパスA館2階大会議室
- 3 出席者 委 員 川村恒明 前田秀一郎 金丸康信 久保嶋正子 古屋玉枝  
法 人 清水理事長 相原副理事長 澁谷理事 流石理事 佐藤理事  
八代国際政策学部長 西澤人間福祉学部長 村松看護学部長  
佐藤看護学研究科長 柳田図書館長  
二戸地域研究交流センター長 坂本保健センター長 ほか  
事務局 上野県民生活部次長 井上私学・科学振興課長 ほか

### <議題>

- （1）平成29年度第2回山梨県公立大学法人評価委員会議事概要（案）について  
審議の結果、各委員から特段の意見なく、案のとおり了解。

### <議題>

- （2）公立大学法人山梨県立大学の平成28年事務実績に関する評価及び評価結果（案）について

#### ◆事務局

資料2、3により説明。

#### ○委員長

本日は、資料2「論点整理表」に基づき、各委員に事前に評価していただいた各小項目について、委員の評価ランクが分かれた部分を中心に審議していく。

まず、「1-1-（1）教育の成果・内容等に関する目標」についてであるが、小項目7番が法人評価はⅢ、委員評価はⅢが4名、Ⅳが1名と意見が分かれているが何か意見はあるか。

#### ○委員

私もⅢで結構である。

#### ○委員長

それでは、7番はⅢとする。「1-1-（1）教育の成果・内容等に関する目標」の小項目の意見の不一致は以上であるので、この大項目全体の評価について、Aが3人、Sが2人と評価が分かれている。

#### ○委員

Sという評価としたが、第一期目標期間からカリキュラムマップ・カリキュラムツリーについては課題になっていたが、ここでようやく成果が出てきた。大学のホームページを見させていただいたが、学生がシラバス等を見てどの科目を選択するかの判断に非常に役に立つのではないかと感じ、Sと評価した。

○委員長

私もS評価とさせていただいたが、今の委員の同意見である。教育の質保証という大学教育の根底の一番大切なところを、内容について議論はあるところであるが、よくここまで整理されたなと思ひSとした。あまりSをつけすぎてはいけなないが。

○委員

私はAとしたが、第二期中期計画の1年目ということでもあるので、来年度以降も継続して頑張してほしいという願ひを込めてAとしている。委員長や委員の大学教育の根底にかかる部分ということであるほどと思ひた。

○委員

カリキュラムマップや学士力の部分についてはIVと高く評価したが、全体的にみてAとした。この部分を高く評価して、全体をS評価とするということであればそれでよいと思ひう。

○委員

Sは相当な事柄がなければ、なかなか付けることは出来ないと思ひているので、来年度以降もこのまま引き続き頑張してほしいと思ひを込めてAとしている。

○委員長

それでは、全体でS評価の数がいくつかということもあるので、この部分は保留として最後に全体をみて判断することとする。

○委員長

続いて、「1-1-(3) 学生の支援に関する目標」の評価について、小項目18番の授業料減免の部分でⅢが4人、Ⅳが1人と意見が分かれているがいかがか。

○委員

Ⅲで結構である。

○委員長

私も迷ったところだが、委員会評価はⅢということとする。この部分の全体の評価は全員の意見が一致しているので、このままAとする。

続いて、「1-2-(2) 研究実施体制等の整備に関する目標」の小項目21番と22番の評価が分かれている。21番はⅣが1人、Ⅲが4人であるがいかがか。

○委員

皆さんと同じくⅢとしたい。

○委員長

地域研究交流センターの事業を高く評価しているということだが、それではⅢとする。

続いて、22番は私1人がⅡを付けているが、研究倫理の研修がメールによるコンプライアンス

ス研修のみであったということでⅡと厳しく評価した。こういう意見があるということの評価書の中に反映していただければⅢで良いのではないかと思う。よってここはⅢとする。ここの大項目評価はAということで一致している。

続いて、「1-3 大学の国際化に関する目標」ついてであるが、小項目 28 番と 29 番は私だけⅡとしている。28 番については努力していただいているということはよくわかるが、留学生の受入数あるいは派遣数は横ばい状態で、まだ結果が付いてこないのは残念だなという意味でⅡとしている。

#### ○法人

平成 27 年度に国際教育研究センターを設置し、その効果は 28 年度単年度だけを見たら、留学生数の伸びが見えてこないが、29 年度は協定数が増えてきたことや学生への啓蒙などによって、受入・派遣ともここ 3 年間においては増えてきている。30 年度以降もこの傾向は続き、留学生数は増えていくと考えている。

#### ○委員長

確かにこれらの取り組みがすぐに効果を上げて留学生が増えたりするわけではないので、タイムラグがあるのだろうと思っているが、ご説明いただいたように順調に 29 年度以降も増えていくように是非お願いしたい。それでは 28 番はⅢということとする。

それから 29 番は年度計画で外国人教員の倍増計画を立案するとしているが、エビデンスや資料にはそれがないが。

#### ○法人

倍増計画に関しまして、次期中期計画を作る上で人事方針案というものを策定し、その中で外国人教員の積極的な採用を掲げている。それを各学部採用方針の中に落とし込み、特に国際政策部では具体的に、語学教員や専門教員を含め、増やしていくことを計画している。28 年度は国際政策学部の専任教員を 1 人採用するという学部の方針として人事目標を掲げたが、結果的には残念ながら採用に結びつかなかった。

また、国際教育研究センターを今後学部から独立させるということを計画しており、そこで外国人教員を 2~3 名程度採用するということを考えている。28 年度はそのような事を検討し、29 年度以降も進めていく予定である。

#### ○委員長

27 年度の教員数が 50 人、特任教員が 10 人、その他任用形態別に何人かいて、足していくと合計が 100 数人になる。倍増計画といったときに母数となるのはこの数となり、100 数人のなかに外国人教員が何人いて、それをいつまでに倍増させるというのが倍増計画になると思う。任用形態はいろいろとあると思うが、そのような事を踏まえて、例えば国際政策学部には何人程度採用して、看護学部は何人程度の人数で、大学全体としては外国人教員が倍増するという形にしなければ計画ならない。その部分で、年度計画の達成状況としてはいかがかと思ったところ。

他に特段の意見がなければ、評価書の中に今の意見として反映していただければⅢでも構わないが、よろしいか。(異議なし) それでは、ここはⅢとする。

#### ○法人

中期計画を策定するときに、数値目標は第一期中期目標期間の実績を参考にして掲げた。外国人教員については、第一期は3人から始まり、最終年度は5人で、平均すると3.7～3.8人くらいが在籍しているということになり、それが倍増となると8人程度ということを目安としている。

委員長がおっしゃるように、それを明文化した倍増計画はなく、なかなか人事の関係であるので難しい部分もあるが、目標値をしっかりと決めていきたいと考えている。

#### ○委員長

是非そのようなかたちで、対外的に見えるような形でしていただければありがたい。

それでは、「1－3 大学の国際化に関する目標」の全体評価は、先ほどの28番と29番の評価の関係で、AとBに分かれているが、今の議論を踏まえて、Aということとする。

続いて、「2 地域貢献等に関する目標」について、小項目30番がⅢが4人、Ⅳが1人という評価になっている。

#### ○委員

これは大学COC事業あるいはCOC+事業の推進ということでⅣとしたが、全体としてはⅢでよろしいかと。

#### ○委員長

それでは、ここの評価はⅢとする。

続いて、31番はⅢが1人、Ⅳが4人となっている。

#### ○委員

認定看護師の育成・輩出は、県内の看護の質の向上に非常に寄与しているということは身をもって感じている。また独自のプログラムで実施してことも評価できると思うが、さらに期待を込めてⅢとしたがⅣでよろしいかと思う。

ここで、委員から現場から離れている看護師の学び直しも本学でできないものかという提案をいただいております、ありがたいと感じている。実はこの学び直しの部分は、県からの委託事業で、潜在看護職員復職研修事業を看護協会で実施しているという経過がある。実際には、研修受入協力病院があり、そこにそのまま就業するということが多いが、研修期間が3～5日なのでそれが十分かどうかということは検証しなければいけないと考えており、ご提案いただきありがたい。

#### ○委員長

それでは、31番はⅣとする。

次に33番についてであるが、Ⅲが4人、Ⅳが1人となっている。

#### ○委員

継続事業に加え、新規事業も実施しており、また、看護学部の調査結果を実際に29年度の事業に反映させているという実績を見て、Ⅳと高く評価としたが、各委員の評価や法人の自己評価がⅢということでもあるので、Ⅲということ結構である。

○委員長

それでは、33番はⅢとする。

それから35番については、Ⅲが1人、Ⅳが4人となっている。

○委員

法人がⅣと自己評価した理由がよくわからない。先ほど委員がいったように、継続事業を含めて多くの事業を実施しても自己評価がⅢであったのに対し、なぜここがⅣなのかという印象を受けた。

また新たにキャンパスツアーを行ったということだが、大学においてキャンパスツアーとはそんなに珍しいことではないのではないか。参加人数が79人というのは、入学定員から考えると多いのかもしれないが、私自身の印象としては少なくとも感じる。新しい取り組みをしたことは評価できるが、実施レベルでいうと、計画どおりにとどまるのではないかと考えⅢとした。

○法人

オープンキャンパスで模擬授業のようなことをしているが、通常の授業ではない。キャンパスツアーは、通常の授業に参加していただいております、そのような機会はなかなかないので、そういう意味では意義があったと考えている。

それから、これまでプロジェクト研究の中で身延高校と連携した事業をやってきたが、改めて連携協定を締結し、城西高校も加えて新たに高大連携事業を実施した。そういったことを踏まえてⅣとした。

○委員長

それでは、35番についてはⅣということよろしいか（異議なし）。それではⅣとする。

36番も意見が分かれており、Ⅲが1人、Ⅳが4人となっている。

○委員

私はⅢと評価したが、COC+事業の推進や県内への就職率についても上昇しているので、Ⅳと迷った部分ではあったが、産業界からの立場としてはさらに期待をしたいということでⅢとした。この大項目の評価を私はSとしているので、ここはⅣで結構であると思う。

○委員長

それでは、36番はⅣとする。

地域貢献に関する目標については、小項目も多く、いろいろ意見が分かれたが、大項目評価が、Sが3人、Aが2人で悩ましいところだがいかがか。

○委員

大学COC事業、COC+事業ともにしっかりと継続しているところですが、計画どおりに進められていると受け止めたので、私はA評価とさせていただいた。

○委員長

こちらも全体を見てからということで保留として、先に進める。

次に、「3-2 財務内容の改善に関する目標」の小項目 47 番について、私だけⅡとしている。なぜⅡとしたかという、決算において教育経費と研究経費が決算ベースで前年度より落ち込んでいる。教育経費は科目の振り替えということであるが、研究経費が落ち込んでいるということに危惧する。経費節減はもちろんしていかなければならないが、直接研究に関わることで、大学としての存立の基本の部分でありⅡと評価させていただいた。年度計画とは直接関係ないが、ここでしか意見を伝える場がないのでⅡとしている。年度計画の評価としてはⅢでよろしいかと思うが、この問題について、大学における教育研究経費の必要性というものを十分に認識していただきたい。

また、ここの大項目評価について私だけBとしているのも、今の話があるからなので、ここも委員会評価としてはAということで、評価書に何らかの形で反映させていただきたいと思う。

これ以外の小項目、大項目については委員の評価は一致しているので、そのとおりとする。

ここで保留にしていた大項目の「1-1-(1) 教育の成果・内容等に関する目標」と「2 地域貢献等に関する目標」の評価についてである。不文律があるわけではないが、Sという評価は全体で1つかなという印象。Sが2つというときも過去にあったか。

#### ○事務局

平成 22 年度、24 年度、25 年度の評価でSが2つあった。地域貢献に関する目標については、22 年度～26 年度は毎年S評価で、27 年度はAであった。

#### ○委員

地域貢献については公立大学法人になってからも様々な取り組みが行われて、毎年新しいことをされていて、ずっとSとしてきたと思う。委員となって長い年月がたつと、慣れと言うか、驚かなくなっている部分もあり、今回も順当にやって頂いたなという意識でAをつけてしまったところもある。県立大学においては、地域貢献に関する様々な取り組みを毎年継続して実施し、地域のために大学の知的財産を還元しているということを踏まえれば、Sでも良いのではないかと思う。

#### ○委員

地域貢献というと、授業を通じた貢献と課外活動としての貢献ということがあるが、両面において頑張っておられるのではないかと思う。マスコミの立場からすると、メディアなどに取り上げられる数が県内の他大学に比べ、県立大学の学生の活動の方が多いのではないか感じている。キャンパス 1 階に広報の新聞コーナーがあるが、そこを見ても非常に多くの活動が取り上げられており、大きく地域に貢献しているのではないか。

#### ○委員

県立大学の地域貢献は私も肌で感じている。先ほどはさらに期待してAということを申し上げたが、他の委員の話をうかがってSで良いのではないかと考えている。

#### ○委員

Sで結構と思う。

#### ○委員長

私も各委員が言ったように、地域貢献に関して本学は本当に良く取り組んでおられると思う。しっかりと計画を作って、着実に実施していただきたい。それでは、地域貢献に関する目標についてはSとする。

それから、教育の成果・内容等に関する目標についてだが、特に学士力を具体化されたという取り組みは、本当に地道なことで苦労が多かったかと思う。その成果はこれから出てくると思うのが、これからも続けてほしい。そういった意味でSとした、全体の評価数とするとAというところか。

#### ○法人

追加参考資料の中に、昨年度策定した全学共通及び各学部の学士力の一覧表がある。これは前期分だが、約1,200科目がどの学士力を獲得できるのかを整理している。また、学士力の習得度合いをどのように数値化するのかのサンプルを添付した。学生による授業評価の4つの設問があり、これが当科目の平均、学部・学科の平均、全体の平均が比較できるような形で集計できる。これらを全科目分集計することによって、全学、各学部・学科の学士力はどのぐらいかを数値で示すことができる。これまでの授業評価は基本的には個人での授業改善が中心であったが、これにより組織的に教育の質保証に取り組み、社会に公表する仕組みとした。他大学にはない先行した取り組みである。

#### ○委員

このようにひとつひとつの科目について分析して、毎年度にこういった形でまとめるという道筋が見え、想像を越えたものができた。評価に当たってホームページも拝見したが、莫大な作業だったのではないかと感じ、Sという評価とした。

#### ○委員

私もSで結構である。

#### ○委員長

私もかつて学長をしていた時に同じようなことを考えたが、膨大な作業でもあり断念した。これを実施されただけでも評価に値する。ただ、結果としてこの集計アンケートが纏まった時にそれがどこまで信用できる数字になるかは別だと思うが、何もないことに比べればその意義は大きい。最終的には教育のレベルアップに繋がるのではないか。

それでは、この項目もSとしてよろしいか。(異議なし) それでは、ここはSとする。

#### ◆事務局

資料3により説明。

#### ○委員長

拝見していて多少字句を入れ替えた方が良いところなどがあるが、そういうお気づきの点があれば、ご意見をいただいてその上で事務局に整理していただく。全体的な所見の部分などで何か意見はあるか。

#### ○委員

全体的な所見の部分で、「地域との関わりの深い大学として、地方創生に資する研究やプロジェクトを積極的に展開しており、学生に対する評価が高まっている」という箇所があるが、学生に対する評価が高まっているということを示す資料はあるか。

#### ○事務局

資料2の論点整理表の最終ページに各委員から全体を通しての自由記入欄があるが、その中で委員に「学生に対する評価も高まっている」という評価をいただいたので、このように記載させていただいた。

#### ○委員

高まっている一方で、企業経営者の立場から就職試験の結果をみると、県立大学の学生は他の国立大学の学生などと比べると、まだ多少負けているのではないとも書いたが、これは絶対的な評価というか、大勢の経営者に聞いたわけではなく、私が存じ上げている一部の会社でのことではあるが、昔の県立の短期大学のときに比べれば、間違いなく学生の評価や大学のイメージは高まっているという認識である。

#### ○委員長

他に何かご意見はあるか。

また全体を確認していただき、何かご意見があれば事務局にメール等をしていただいて、最終的には事務局と私で整理をさせていただきたいと思うがよろしいか。(異議なし)

#### <議題>

### ●(3) 公立大学法人山梨県立大学の平成28年度財務諸表及び利益処分(案)に関する意見について

#### ◆事務局

参考資料2により説明。

#### ◆法人

資料4により説明。

#### ◆事務局

参考資料3により説明。

#### ○委員

経営努力により生み出した利益は、中期計画の目的の範囲内で目的積立金として繰越ができるという制度だが、目的積立金をどうやって法人内部に残していくのか、中期計画はあるが具体的に目的積立金をどのように活用していくのかという問題はしっかりと議論した方が良いと考える。運転資金の関係など内部留保がどのくらい必要になるのか、そのような事も併せて検討されるとよろしいのではないかと思う。目的積立金を新規設備投資に取り崩したということで、そのように単発で使っていくのではなく、法人としてどのように計画的に活用していくのか考えていただきたいと思う。



○法人

大学であるので教育研究に活用していくべきだということは認識している。長期的な観点に立って計画的に活用していくということであるが、特に施設が相当老朽化しており施設整備に多額の金額がかかることが予想され、6年かけて取り組もうと計画している。全体的に改修が必要な箇所が64カ所あるが、それについて28年度は約8%を実施した。委員ご指摘のとおり計画的に目的積立金等を活用し、6年間かけて必要な施設整備を100%達成できるようにやっていきたい。教育研究についても、大学の方針を踏まえて、毎年度検討しながら活用していきたい。

○委員長

できるだけ教育研究への有効な活用をお願いしたい。

それでは、財務諸表及び利益処分案の承認について、原案のとおり適当であると了承するということによろしいか。（異議なし）それでは原案のとおり了承することとする。

（以上）